

## 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団体名	心の城総合芸術工場		
事業名	IAG AWARDS 裏小樽展「中根隆弥展」		
実施期間	令和6年11月1日(金)～11月14日(木)		
事業の目的及び期待する効果	<p>小樽の豊かな自然と歴史文化を大切にしながら、現代のアート表現と融合させることで、新たな芸術文化の創造と発展を目指す。また、小熊秀雄氏の作品や哲学を通じ、芸術の力で人々の心を豊かにし、共感と感動を生み出す。</p> <p>広域連携をするのは、東京都豊島区での取組み「池袋モンパルナス回遊美術館」。その「池袋モンパルナス」は若手芸術家の集う場として小熊秀雄氏が名付けた。「裏小樽モンパルナス」も、氏の意志をもとに小樽市及び近郊で活動する心身のアーティストたちの拠点を目指すということで、本事業により池袋と小樽の双方の文化芸術の底上げを図ることを目指すものである。</p>		
実施額	事業費	440,294円	助成額 212,194円
事業内容	<p>IAG AWARDS 2024「裏小樽モンパルナス特別賞」を受賞した中根隆弥氏(山梨県在住)によるアーティスト・イン・レジデンス。作品の公開制作、作品展示、ワークショップ、トークセッション、ライブドローイング</p> <p>1) 作品の公開制作／小樽で収集した素材を使ってドローイングマシンを制作すしたり、会場にインスタレーションする様子を一般に公開(11:00～18:00)</p> <p>2) 中根氏の作品の特徴は、地域で見つけた素材(ファウンド・オブジェ)から「ドローイングマシン」という道具を作り、それを使って様々な「線」を描き、立体的なインスタレーションとして展示空間を演出することにある。今回は初の小樽滞在で出会った素材や学んだ歴史を消化し、小樽だけで作ることが出来る作品として昇華させた。</p> <p>3) ワークショップ／ドローイングマシンの重要なパーツである筆を、小樽で収集した流木や枯れ葉などを使って参加者たちと一緒に制作、墨や絵の具を用いて線を描いた。</p> <p>4) トークセッション／中根氏のバックグラウンド、作品に込めた思いなどを語ってもらい、その後小樽在住のアーティストである上嶋秀俊氏、saru1氏を交えて鼎談も行った。</p> <p>5) 展示会場前の道路を歩行者天国にして広い空間でドローイングマシンを実際に動かしてライブドローイング。小樽の活版印刷工場で入手した古い大きな紙をキャンバスに縦横無尽に線を描く様はまさに鬼気迫るもので、見る人に倒</p>		

	<p>的な印象を残した。ライブドローイングで制作された作品は、新たに展示に加えられた。</p>
--	---

○事業の内容が分かる「資料やチラシ等」がありましたら添付してください

○事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
10/8～11/16	チラシ配布	1500部	1500部
11/1～11/7	小樽の自然、文化、歴史のリサーチおよび公開制作		30名
11/8～11/16	作品展示	500名	138名
11/9	ワークショップ	40名	10名
11/10	トークセッションおよびライブドローイング	40～50名	40名

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

(前ページに記載した「事業の目的」を達成することができたかどうか、反省点等も含め具体的に記入すること)

○制作にあたり、塩谷、蘭島といった海岸、長橋なえぼ公園、総合博物館運河館、活版印刷工場、小樽の語源である「オタルナイ」にあたる石狩市樽川などを視察し、小樽の自然、歴史に触れてもらった。

○小樽在住のアーティスト、美術館、文学館の関係者とも積極的に交流を図った。

○期間中、「池袋モンパルナス回遊美術館」実行委員長の小林俊史氏も3日間小樽に滞在。会場や作品を見ていただきながら中根氏や小樽の関係者と親交を深め、来年度以降も広域連携を強力に進めていくことを確認した。

○中根氏が積極的にSNSで情報を発信し、全国の若いアーティストに小樽での取組みを知ってもらうことが出来た。

○中根氏は来場者との対話を重視するアーティストで、作品展示を媒介に地域の方々と積極的にコミュニケーションを取っていた。来場者にとっても作品だけでなく作家と直接会話することでより深い印象を持っていただけたと思う。

○北海道新聞や読売新聞、小樽ジャーナル、FMおたる（中根氏にとってラジオ初出演）でも取り上げていただいたおかげで、中根氏も驚くほど「新聞を見て来た」という方が相当数いた。他都市でのアーティスト・イン・レジデンスではなかったことだという。

○数々のアーティスト・イン・レジデンスを経験している中根氏にとって今回の小樽滞在はかなり強いインパクトがあったようで、小樽の街自体を大変気に入ってくれた。今後の活躍が期待されている作家であり、長期的な友好関係を築いていく土台となる事業となった。

○作品の一部は裏小樽モンパルナスの民泊やレンタルカフェに引き続き展示されている。

## 2. 事業の効果（参加人数の面から）

（実績の参加人数は想定した人数の何パーセントだったか）※実績数÷想定数で計算

○チラシ配布 100%

○作品展示 28%

○ワークショップ 25%

○トークセッションおよびライブドローイング 100%

（上記の割合となった理由や上記の割合に対する自己評価などを記入すること）

作品展示およびワークショップは想定人数が多すぎたきらいがあり、実績としては上々だと自己評価している。

かなり激しいアクションを伴うライブドローイングは会場の外の通りで行ったため、道行く人たちがどんどん集まり、スマートフォンで撮影する方が続出した。

## 3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

（アンケートや聞き取り等によって把握した参加者の感想や反応を記入すること）※別紙による提出も可

小樽の自然や歴史を踏まえた作品に対して好感を持っていた来場者が多かった。当たり前のもものとして受け止めている小樽の自然や歴史が中根氏の感性を通して昇華された作品を見て、地域の文化を見つめなおすきっかけになったという方も多数いた。全体的に大変評価が高い事業になったと感じている。

#### 4. 今後の事業について

(1～3に記入した、事業の達成度・効果・満足度を踏まえ、来年度以降はどのような事業を行っていく予定か、記入すること)

アーティスト・イン・レジデンスは今回初めての取組みだったが、事業の枠組み、受け入れ態勢、スケジュール感などを把握することが出来たことは大きな収穫だった。IAG AWARDS を主催する「池袋モンパルナス回遊美術館」側にも「裏小樽モンパルナス特別賞」の意味合い、可能性を理解していただいたと感じており、来年度の公募展「IAG AWARDS 2025」では今年以上の結果を出せるようなアーティストを選考したいと考えている。少なくとも5年間は同じ枠組みで事業を展開したい。